

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K14234

研究課題名（和文）性暴力行動を扱う専門家のための学習資源と研修カリキュラムの構築

研究課題名（英文）Building learning resources and training curricula for professionals working with youth who have problematic sexual behavior

研究代表者

毛利 真弓（Mori, Mayumi）

同志社大学・心理学部・准教授

研究者番号：70780716

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：性暴力を扱う専門家向けの学習機会が少ないことを問題意識とし、ヒアリング調査等の上、子どもの性問題行動を扱う専門家を対象として性問題行動をした青少年のアセスメントツール（YNPS）の翻訳と研修の実施、性問題行動の理解や介入に関する基礎知識を網羅した学習資源（DVD教材：16本の動画）の作成を行った。DVDはわかりやすく理解が深まったという感想を得られたほか、視聴前後に性問題行動を持つ者への否定的態度（性問題行動を持つ人への態度尺度ATS-21）が有意に減るなど学習効果があったことが示唆された。研究には多くの専門家が参加してくれており、ニーズの高さと本研究の学習資源の意義が確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、青少年の性的問題行動に対応する専門家が適切な初期対応・関係機関へのリファー・再犯防止のための効果的な介入を行えるようになるための基礎知識を網羅した学習教材を開発することであった。研究には学校・児童福祉・司法（加害者支援・被害者支援）・医療と広い領域の専門家が参加し、その多くが「理解が深まった」と肯定的な感想を述べたほか、性問題行動を持つ人への態度を測る尺度（ATS-21）において否定的な態度の有意な減少がみられ、学習資源の効果が確認できた。動画は研究終了後無料で公開される予定であり、性問題行動に適切な対応をしたい専門家に対して広く啓蒙を続けることができる資源が開発できた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a learning resource covering the basic knowledge for professionals who deal with sexually problematic behavior in young people to be able to provide appropriate initial responses, referrals to relevant agencies, and effective interventions to prevent recidivism. After conducting interviews, I created videos (16 30-minute lectures) and examined changes in attitudes toward youth with sexually problematic behavior before and after viewing the videos. The results indicated that negative attitudes toward youth with sexually problematic behavior (using the ATS-21 Attitudes Toward People with Sexual Problem Behavior scale) decreased before and after viewing the videos, suggesting that there was a learning effect. Many professionals offered to participate in the study, confirming the high level of interest and need in this area and the significance of the learning resource.

研究分野：非行・犯罪心理臨床

キーワード：性問題行動 性暴力 子どもの性犯罪

### 1. 研究開始当初の背景

性暴力のもたらす悪影響への理解が進み加害者への対応を求める声は強まりつつあるが、教育資源の乏しさや忙しさなどの理由により、性問題を扱う専門家全員に性暴力行動の理解と対応に対する基本的知識が浸透しているとはいえず、再犯防止に効果的ではない対応が散見される問題が生じている。こうした弊害を防ぐとともに、現在取り組まれている様々な介入がより再犯防止に寄与するものになっていくために、「必要十分」で「効率的」な内容の研修を構築することが日本の性暴力加害者への介入研究が展開していく際の重要な基盤になると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、性暴力を扱う各種専門職に対して必要な基礎知識を明らかにし、研修プログラムと教材を開発して展開することで、日本の性暴力行動変化のための教育を担う専門家教育体制を作る礎となることを目指すことであった。この研究を基盤にして、再犯防止に有効な性問題行動への介入の専門家を増やし、日本における性暴力へのアプローチの知見を蓄積・洗練させていくことに貢献することであった。

### 3. 研究の方法

#### (1) ニーズ調査

成人の性犯罪者を収容する刑務所(1か所)、性問題行動を起こした少年が係属する児童自立支援施設(3か所)及び児童相談所(4か所)での専門家への指導を通じ、組織の特性や対象者の年齢に応じてどのような知識が足りていないか、どのような研修ニーズがあるかを把握した。成人施設よりも児童福祉関係施設のほうが資源や研修不足により困っているということが分かったことから、本研究での学習資源は性問題行動を持つ未成年を扱う専門家を対象とすることとした。

#### (2) 資源の調査

ATSA (The Association for the Treatment and Prevention of Sexual Abuse: 性虐待の処遇・予防学会: オンライン実施)に参加し最新の研究に関する知見を収集するとともに、オンライン学習資源(ATSA Master Class: 3コース計21時間)を受講し、研修の組み立てについて調査した。

これを踏まえ、研修の中で共通して言及されている項目を本研究の学習資源に組み込む決定をするとともに、特に日本ではリスク・ニーズアセスメントツールに関する知識と必要性の認識が乏しい(海外では当然使用するが日本はまだ専門家の臨床的感覚に頼っている)と考え、アセスメントツールに関する別途の研修や資源の開発の必要性も並行して行うこととした。

#### (3) リスクアセスメントツール研修の実施

当初予定していた専門家を呼んでのイベント等がCOVID-19により開催が難しかったことと、前記の通りリスクアセスメントツールに関する研修を行うことで基礎知識を底上げすることの必要性を感じたことから、性問題行動をした青少年用のアセスメントツール Youth Needs and Progress Scale (YNPS: Righthand, et.al., 2020)の日本語訳(開発者によるダブルバックトランスレーションのチェックを含む)を行ったうえで、開発者によるオンライン研修を実施した。

#### (4) 学習資源の開発

多忙な専門家が空いた時間に受講できるよう、学習資源は動画とし、1本30~40分を目安にして講義のみではなくディスカッションも含む工夫をすることとした。また、子どもにかかわる全専門家(学校教員、施設職員等)に知っておいてもらいたい「基礎編」と、実際にかかわる人により具体的に介入について学んでもらう「介入実践編」に分けることとした。動画には、専門性を持つ他の研究協力者にも参加してもらった。

#### (5) 専門家への学習資源の配布と成果の調査

##### 配布の方法

YNPS 研修を受講した専門家への告知や SNS、研究代表や研究協力者の研修講師の機会を使って申し込み用フォームに申し込みをもらった。個人単位・組織単位いずれの受講も可能年、2名以上で受講してくれる人を優先にしてDVDを配布し、それ以外の協力者はYoutubeで視聴してもらった。テキストは、希望する人には印刷した冊子を送付し、それ以外の方はダウンロードできるURLを配布した。受講は、1)基礎知識編のみ、2)介入実践編のみ、3)基礎知識編+介入実践編すべて、のいずれかの視聴に限るよう依頼した。

##### 検証の方法

受講後に、視聴後の感想を尋ねるアンケートにも回答してもらった。また、受講前後に、性

問題行動を持つ人への態度尺度 (ATS-21 : Hogue & Harper, 2019) に回答してもらい態度の変化を測定した。ATS-21 は、性犯罪行動をした人に対して 1) 信頼 (「信頼できる性犯罪者もいると思う」など)、2) 意図 (「性犯罪をする人は自分のことしか考えていない」など)、3) 社会的距離 (「性犯罪をする人は環境の被害者であり援助を求めている」など) の 3 つの観点から評価を尋ねる尺度であり、合計が低いほど否定的な態度、高いほど肯定的 (偏見の少ない) 態度となる。

#### 4. 研究成果

##### (1) アセスメントツールに関する教育機会の提供 (と今後の別課題に向けた基礎作り)

アセスメントツールは、性問題に関する基本的な理解と、何が再犯率と関係があるかについての知識に基づいて使用するものであり、アセスメントツールの研修の実施は単なるツールの使い方にとどまらず、性問題行動を扱う専門家に必要な基礎知識を提供できるものとなった。

・実施日：2022年1月11日・12日・18日・19日 (各2時間×4日)

・参加者：19組織 (児童相談所、児童福祉施設) 70名

終了後のアンケートでは参加者の満足度も高く、実践のよりどころとなりうることが伺えた。

なお、YNPS については研修に参加した組織と協定を結び、日本人の子どもでのデータを収集する別研究につなげた (現在データを収集中)。本研究をもとに YNPS 日本語版が作成できれば、さらなる学習 / 実践資源の開発が可能になると考えている。

##### (2) 学習資源 (動画) の完成と検証

###### 研修用動画とテキストの完成

研修用 DVD : 「性問題行動の基礎知識と介入の基礎」 (45 枚作製)

内容 : 基礎編 (9 本) ・ 介入実践者編 (7 本) 詳細は Table 1 のとおり

テキスト : 動画内で使用したスライドを冊子化

講師 : 毛利真弓 (研究代表者) ・ 藤岡淳子 ・ 浅野恭子 ・ 益子千枝

Table 1 学習資源 (動画) の内容

基礎編			介入実践編		
	題名	分		題名	分
1	性問題行動とは：性問題行動の基本的理解	24	1	アセスメントの基礎：初回面接と動機づけ	49
2	理解の基礎：4つの壁とサイクル、境界線と同意	32	2	アセスメントの基礎：情報の集め方と見立て	26
3	アセスメントの基礎知識：性問題行動の類型	35	3	アセスメントの基礎：リスクアセスメント	30
4	アセスメントの基礎知識：被害体験と加害行動	35	4	介入モデル	30
5	アセスメントの基礎知識：発達の偏りと加害行動	36	5	サイクルを作る	38
6	介入の原則：RNR 原則	27	6	障害がある人の対応	56
7	モニタリングと家族の協働	38	7	子どもの変化に焦点を当てるスタッフチーム作り	55
8	思考の誤り	28			
9	事例理解と対応例	34			

###### 研修資源の教育効果の検証

作成した研修資源が実際に役に立つかの検証として、実際に作成した動画を配布し、アンケートに回答してもらった。参加した (アンケートに回答した) 専門家では視聴前 302 名、視聴後 200 名で、組織の内訳は、児童相談所や子ども家庭センター職員 66%、児童福祉施設職員 9%、学校職員 9%、被害者支援機関 / 相談所職員 6%、司法機関職員 3%、その他児童にかかわる職業 3%、医療機関職員 1%、その他 3% であった。感想に関するアンケートの一部を Figure 1-3 に示す。

Figure 1 動画全体のわかりやすさはどうでしたか? (n=200)

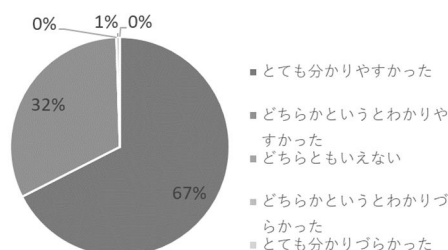


Figure 2 性問題行動を扱う専門家向けの研修動画として適切かつ役に立つと思いますか(n=200)

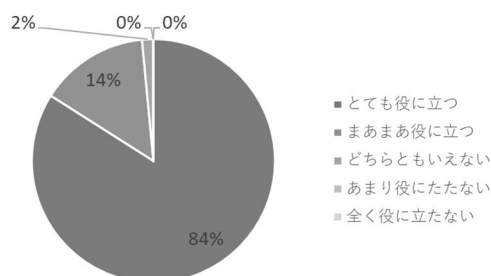
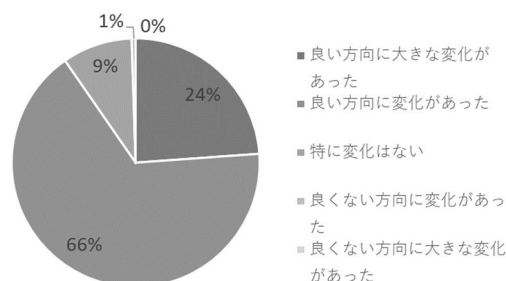
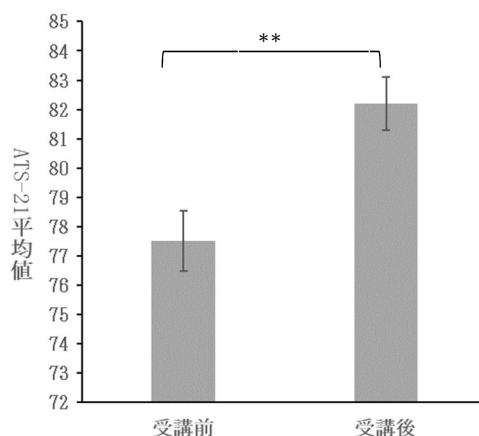


Figure 3 動画を視聴したことで、あなたの自身の態度(性問題行動を持つ子どもの理解や支援の仕方)に変化があったと思いますか？(n=197)



また、受講前後でマッチングができた専門家 70 名について性問題行動を持つ人への態度尺度 (ATS-21) の前後の数値を用いて対応のある t 検定を行った結果、条件間に有意な差が得られた (Figure 4) ( $t(69)=5.82, p < .001, d=0.70$ )。すなわち、動画視聴を行うことで、性問題をした人に対する態度において、否定的な視点が減る (得点が向上する) ことが示された。性犯罪者に対する潜在的態度は臨床的な意思決定や治療風土に影響を与えることが知られており (Harper, Hogue, & Bartels, 2017; Blagden, Winder, & Hames, 2016)、否定的な視点が減ることは、偏見の少ない態度で性問題行動を起こした人に向き合うことができることとつながると考えられる。DVD 視聴は、知識の向上だけではなく、専門家の態度の変化も促せることが分かった。

Figure 4 受講 (視聴) 前後の ATS-21 の変化



注) エラーバーは標準誤差を示す  
\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

なお、作成した学習資源は、目的通り、性問題行動を扱う専門家のニーズに沿って必要な知識を提供できたとともに、性問題行動への態度変化を生む効果もあり、再犯防止に有効な性問題行動への介入の専門家を増やす一助となると考えられた。なお、本研究で作成した動画は無料公開を行う予定であり、引き続き日本の性問題行動を扱う専門家の基礎知識を作る土台となっていくことに貢献していく見通しである。

以上の通り、本研究においては、アセスメントツールの研修によって基礎知識の提供と実践のツールを提供できたとともに、学習資源の開発においても当初の目的を果たす成果物ができたといえる。余談ではあるが、動画視聴の研究では、定員締め切り後も多くの問い合わせがあり、非常に関心が高いと同時に本領域での研修資源を求めるニーズが非常に高いことが伺えた。今後、YNPS 日本語版の作成に向けたデータ収集や分析を通して、さらに学習資源と実践のためのツールを増やしていく研究を進めたい。

#### <引用文献>

- Blagden, N., Winder, B., & Hames, C. (2016). "The treat us like human beings" - Experiencing a therapeutic sex offenders prison: Impact on prisoners and staff and implications for treatment. *International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology*, 60, 371-396.
- Harper, C. A., Hogue, T. E., & Bartels, R. M. (2017). Attitudes towards sexual offenders: What do we know, and why are they important? *Aggression and Violent Behavior*, 34, 201-213.
- Hogue, T.E. and Harper, C.A. (2019) Development of a 21-item short form of the Attitudes to Sexual Offenders (ATS) scale. *Law and Human Behavior*, 43(1), 117-130.
- Righthand, S., Worling, J.R., Prentley, R.A., and Kang, T. (2020) Youth Needs and Progress Scales & User Guide. <https://www.ncsby.org/sites/default/files/Youth%20Needs%20and%20Progress%20Scale-%20July%20,%202020.pdf> (2022年5月3日取得)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 坂東希, 野坂祐子, 毛利真弓, 藤岡淳子	4. 巻 21
2. 論文標題 児童・思春期における性問題行動への治療的介入の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 司法福祉学研究	6. 最初と最後の頁 82-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛利真弓, 坂東希, 藤岡淳子	4. 巻 21
2. 論文標題 大阪府による性犯罪者への介入	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 司法福祉学研究	6. 最初と最後の頁 101-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 毛利真弓・坂東希・藤岡淳子
2. 発表標題 大阪府による性犯罪者への入口支援（2）
3. 学会等名 日本犯罪心理学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂東希・毛利真弓・藤岡淳子
2. 発表標題 大阪府による性犯罪者への入口支援（1）
3. 学会等名 日本犯罪心理学会第58回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究において作成した動画は、今後無料公開して資源としてもらう予定。  
<https://mofumofunet.jimdo.com/%E7%A0%94%E4%BF%AE%E5%8B%95%E7%94%BB-mofu-tube/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤岡 淳子  (Fujioka Junko)		
研究協力者	寺村 堅志  (Teramura Kenji)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------